第113号
2024/10

PVかながわ ニュースレター

Report

相模原市の‘‘太陽光発電新築義務化’’への道

～市から制度案を諮問された会議の一委員の感想～

相模原市は「太陽光発電設備設置標準化制度の導入」に向けて、制度内容・スケジュール等を令和6年1月相模原市地球温暖化対策推進会議に諮問している。私は推進会議の委員として検討に参加してきたので、その間の一委員の感想という形になるが、報告したい。毎回の推進会議議事録は市のホームページで見ることができる。

この制度は東京都と川崎市が施行に向け進行中のいわゆる太陽光発電の新築義務化の取り組みと同様のものである。義務化といっても全てではなく、相模原市の場合は、延床面積2000㎡以上の建築物（大規模建築物）を新増築する建築主への太陽光発電設備等の設置義務、延床面積2000㎡未満の新築建築物（中小規模建築物）を年間一定量以上建築・供給する建築事業者への太陽光発電設備設置義務、建築主への「太陽光発電設備の設置に関する説明」を行う説明義務というもの。東京都、川崎市とほぼ同様の制度設計、スケジュール感の提案である。

検討の過程で委員から様々な意見や質問があった。私は対象事業者に義務付ける設置基準値の数値への疑問、このレベルの設定値で国が目指す新築の6割に設置できるのか、ゼロ円ソーラー（PPA）での太陽光設置でも義務達成になるか（市からPPA利用は可能との回答あり）、少しでも早い対策が必要なので令和9年度開始予定を1年前倒しして8年度開始にできないか、などの意見を述べた。

市が提示した事業者からのヒアリング一覧からは制度への否定的意見は少なく感じた。印象的だったのは、ある住宅建設会社を会議に招いて意見を

伺った場面である。それなりの反対意見を予想していたが、「孫世代の事を考えたら全棟設置すべきである」と述べられ、驚いた。さらに、相模原市は他市に追随しているばかりで、もっと思い切ったことをしてほしい、ビジネス的にはつらいが温暖化防止のために必要で、相模原市がこれから誇れる道は環境先進都市としてではないか、とのこと。これには他の委員からも自分の言いたいことをすべて言ってくれたように感じた、との感想があった。

答申案作成は市事務局と会長に一任される。近隣市との継続性、相模原市の体力など考慮した上で、これまでの意見をできる限り反映させた内容とするとのこと。さてどのような答申案が提示されるか。次回会議で答申案内容を検討することになる。

4年前娘夫婦が家を建てる際、ローンの限度額から当初は太陽光発電設置を諦めるとのことだった。結果的には親が資金を出して設置したが、彼らにとって太陽光の優先順位は高くなかったということだ。しかし昨年、私の知らぬ間に自分たちで高価な蓄電池も設置していたのだ。設置してみて、また電気料金の高騰なども経験して、太陽光の良さに気づいたようである。若い世代が設置しやすい制度設計と説明の必要性を強く感じている。（北村記）

参考：先進事例（東京都）
PowerPoint プレゼンテーション (go100re.jp)

世話人から

連絡事項

7月28日総会、無事開催されました。ご協力ありがとうございました。

10月以降の予定

「さがみはら市民活動フェスタ」
（温対協ブースにPVさがみはら協力）
日時：10月6日（日） 9:30–14:30
会場：淵野辺公園

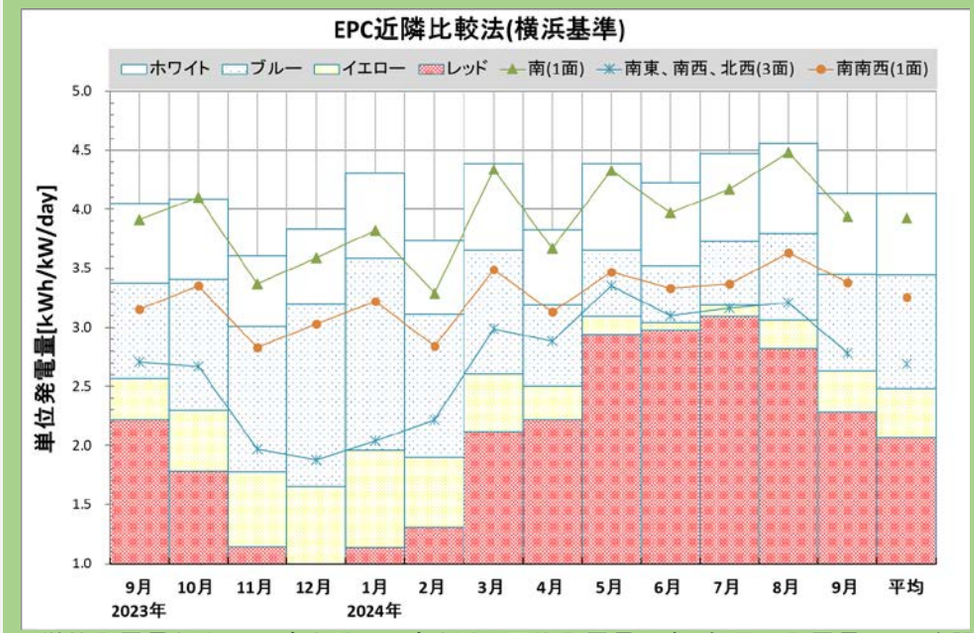
「小学校出前講座」
（アース・エコ主催　PVさがみはら協力）
日程：10月16日（水）12月10日（火）
会場：相模原市立小学校2校

「旭ふれあい区民まつり」
日時：10月20日（日） 10:00–15:00
会場：旭区役所駐車場及び鶴ヶ峰商店街協同組合駐車場内

「子育て広場出前講座」
（温対協主催　講師PVさがみはら）
日時：11月1日（金）10：30–11：30
会場：相模原市立二本松こどもセンター

「泉区民ふれあいまつり」
日時：11月3日（日） 10:00–14:00
会場：和泉遊水池3池、4池

今月の単位発電量！



横浜の平均気温は平年に比べ+3.2℃を昨年同様に暑い9月になりました。気象庁によると8月は「暖かい空気に覆われやすく、全国の猛暑日を記録したアメダス地点数の9月の積算は1,452で、比較可能な2010年以降で9月として最も多くなった。月平均気温は全国的にかなり高く、月平均気温偏差は東日本で+3.2℃、西日本で+3.4℃、沖縄・奄美で+1.1℃となり、東日本と西日本では9月として1位となった。降水量は、秋雨前線の活動が活発化し、秋田県や石川県で線状降水帯が発生するなど記録的な大雨となった所もあり、東日本日本海側では多かったが、北日本日本海側、東日本太平洋側では少なかった。中・下旬を中心に台風や熱帯低気圧の影響を受けやすかった、沖縄・奄美の月間日照時間は少なかったが、東日本太平洋側では多かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。